

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会

第28回大会プログラム

2010年 9月4日(土)・5日(日)
九州産業大学 (JR 九産大前駅より徒歩1分)

I 日程

9月4日(土)		9月5日(日)	
全国理事会	10:30~12:00	受付開始	9:00
受付開始	12:30	自由研究発表	9:30~11:20
自由研究発表	13:00~14:20	総会	11:30~12:00
シンポジウム	14:40~17:00	昼休憩	12:00~13:00
懇親会	17:30~19:30	課題研究報告会	13:00~14:00

II 会場・発表時間

全国理事会	2号館5階 大会議室
理事控え室	15号館1階 15101教室
自由研究発表・総会・課題研究報告会	15号館1階 15102教室
会員控え室	15号館1階 15104教室
シンポジウム	15号館2階 15201教室
懇親会	8号館1階 クラブハウス

【発表時間】自由研究発表は1人25分、質疑応答5分です。

III 大会参加費・懇親会費

大会参加費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円、懇親会費は、一律5,000円です。
大会当日、受付会場(15号館1階ロビー)にてお支払い下さい。

IV 昼食について

9月4日(土)は学生食堂が営業していますが、5日(日)は定休日です。大変恐縮ではございますが、大学周辺のコンビニエンスストア等にて各自ご準備くださいますようお願い申し上げます。

V 大会事務局

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第28回大会実行委員会

〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1 九州産業大学国際文化学部 松原岳行研究室内

TEL : 092-673-5870 E-Mail : takeyuki@ip.kyusan-u.ac.jp

第1日 9月4日(土)

<自由研究発表>

15号館1階 15102教室

司会 岸 信行 (中央大学)
宍戸 健夫 (同朋大学客員教授)

13:00～

「幼児の教育」における絵本の歴史

細川 七重 (関西学院大学大学院)

13:30～

或る保育所の記録

—— 実験的施設・戸越保育所の誕生と終焉 ——

浅野 俊和 (中部学院大学)

14:00～14:20

総括討議

< 休憩・会場移動 >

<公開シンポジウム>

14:40～17:00

15号館2階 15201教室

提案者 岩見 廣和 (のぞみ愛児園)
石川 道夫 (藤田保健衛生大学)
湯川 嘉津美 (上智大学)
司会者 浜田 栄夫 (山陽学園大学)
勝山 吉章 (福岡大学)

< 休憩・会場移動 >

<懇親会>

17:30～19:30

8号館1階 クラブハウス

第2日 9月5日(日)

<自由研究発表>

15号館1階 15102教室

司会 小川 哲哉 (茨城大学)
乙訓 稔 (実践女子大学)

9:30~

「大人と子どもの境界について

—— 『エミール』における自律をめぐる論争から考える ——

岡野 亜希子 (九州情報大学・非常勤講師)

10:00~

保育者による子どもの活動の意義付けに関する一考察

—— ペスタロッチー・フレールハウスの実践報告を中心に ——

諏訪 佳代 (滋賀短期大学)

10:30~

山下徳治と『教材と児童学研究』

寺岡 聖豪 (福岡教育大学)

11:00~11:20

総括討議

< 休憩 >

<総会>

11:30~12:00

15号館1階 15102教室

< 昼 休 憩 >

<課題研究報告会>

13:00~14:00

15号館1階 15102教室

責任者 岸 信行 (中央大学)
石川 道夫 (藤田保健衛生大学)
鈴木 由美子 (広島大学)

公開シンポジウム

- 題 目 家庭の教育的機能とは何か
- 会 場 15号館2階 15201教室
- 日 時 9月4日(土) 14:40~17:00
- 提案者 岩見 廣和 (のぞみ愛児園)
—— 実践者の立場から ——
石川 道夫 (藤田保健衛生大学)
—— 子どもの権利の視点から ——
湯川 嘉津美 (上智大学)
—— 歴史的観点から ——
- 司会者 浜田 栄夫 (山陽学園大学)
勝山 吉章 (福岡大学)

<シンポジウム開催の趣旨>

家庭を取り巻く社会構造の急激な変化が、子どもたちの生活体験、とりわけ家族体験に構造的変化をもたらしつつあります。

親の働き方が第一次産業中心から第三次産業中心に移行するにつれて、私たちの社会は消費社会の性格を強め、スプロール現象(郊外型社会)を拡大してきました。その過程で親の働く姿や生き方は子どもにとって見えにくくなり、学びながら大人になることがむづかしくなりました。また、コンピューターコミュニケーションのネットワークがつくり出す情報社会は、出入り自由の広い市民参加型社会を実現する一方、対面接触によってつくり出されてきたコミュニティの人間関係を希薄にし、コミュニティへの信頼度を低下させつつあります。

このような状況の中で、家庭の教育的機能の歴史的変化と現状を踏まえながら、子どもたちを生きやすくする家庭の教育的機能とは何かについて考えてみたいと思います。パネリストの皆さまからそれぞれご提言いただき、会員の皆さまとともに家庭の問題点の本質に近づきたいと考えています。